

【報道関係各位】

2025年4月2日
一般財団法人 日本気象協会

2025年桜開花・満開予想（第7回） 4月上旬は長野・北陸・東北南部で開花ラッシュ 九州から関東では見頃に

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国84地点の桜の開花・満開予想（第7回）を、2025年4月2日（水）に発表します。

◆2025年桜開花・満開予想（第7回）のポイント

【実況】

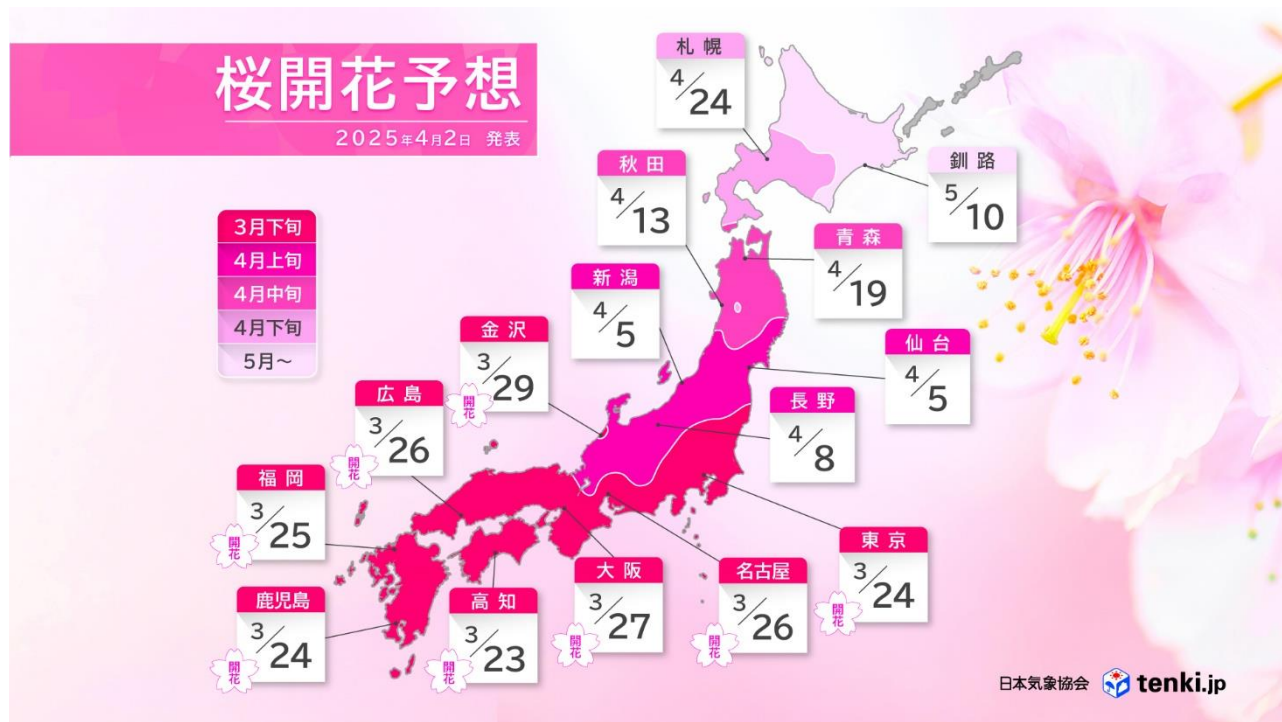
- ・西日本と東日本では、平年並みに開花した所が多かったが、満開は平年より早くなった所も。

【予想】

- ・西日本と東日本で満開を迎えていない所も、4月上旬の間におおむね満開になる予想。
- ・北日本の開花と満開はともに平年より早く、かなり早い所も多い見込み。

また、次回の桜開花・満開予想（第8回）は2025年4月9日（水）に行います。4月3日（木）から4月8日（火）までの間に予想日の変更があった場合は随時、天気予報専門メディア『tenki.jp（てんきじえーぴー）』桜の開花予想ページ（<https://tenki.jp/sakura/expectation/>）にてお知らせします。桜開花・満開の最新の予想情報は『tenki.jp』にて確認ください。

開花予想前線図





開花の傾向

2025年の桜の開花は、西日本、東日本ともに平年並みの所が多くなっています。なお、これから本格的に開花を迎える北日本では、平年より早く、かなり早い所もある見込みです。

今年の開花は、3月22日の宿毛(※1)に始まり、23日以降、各地で開花が続いています。3月中の開花地点数は45地点となりました。これは、平年とほぼ同じ地点数(※2)で、関東以南の地域で開花が遅くなった昨年の39地点と比べ、6地点多くなっています。これから、開花を迎える長野や新潟、東北、そして北海道では平年より早く開花する所が多い見込みです。

※1 宿毛(高知県)は気象台の標本木ではなく、自治体・公園などの協力機関から観測データを得ている日本気象協会の独自地点です

※2 各地の平年開花日から、3月中の開花となっている地点の総数は44地点

満開の傾向

2025年の桜の満開は、西日本と東日本は平年並みか早く、北日本では平年より早いでしょう。

九州から関東で早々に開花した地点では、すでに満開を迎えた所もあります。特に先週は、九州から関東で最高気温が25℃以上の夏日を記録し、一部では30℃を超え、季節外れの暑さになりました。このため、開花は平年並みかやや遅い程度だったものの、満開は平年よりやや早くなった地点もあり、そのような地点では開花から満開までの日数が短くなっています。

この先、4月上旬には東北南部までの広い範囲で満開を迎える見込みです。東北北部は4月中旬から下旬に満開を迎え、北海道では大型連休のころには、多くの所で満開の桜を楽しめるでしょう。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	: 平年よりも7日以上早い
早い	: 平年よりも3日から6日早い
平年並	: 平年との差が2日以内
遅い	: 平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	: 平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1 月、2 月中は開花予想日のみを発表し、3 月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第 1 回 1 月 29 日(水)	第 2 回 2 月 26 日(水)	第 3 回 3 月 5 日(水)	第 4 回 3 月 12 日(水)
第 5 回 3 月 19 日(水)	第 6 回 3 月 26 日(水)	第 7 回 4 月 2 日(水)	第 8 回 4 月 9 日(水)
第 9 回 4 月 16 日(水)	第 10 回 4 月 23 日(水)	第 11 回 4 月 30 日(水)	

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で 5~6 輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で 80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1 月は 49 地点、2 月は 53 地点、3 月以降は全国で約 80 地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木 53 地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる約 30 地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は 2007 年から桜の開花予想を実施しており、今年で 19 年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。